

S.I.D.2000参加報告

日本電気硝子(株)
太田 邦彦

Report on the Society for Information Display 2000 International Symposium, Seminar & Exhibition

Kunihiko Ohta
Nippon Electric Glass Co., Ltd.

2000年5月14日から19日の6日間「S.I.D.2000」がアメリカ・カリフォルニア・ロングビーチで開催された。これは、ディスプレイ最大の学会である。毎年この時期に、快適に過ごす事が出来る場所で実施される。そして主たる目的は、表示デバイス技術の現在と将来のその年の総括である。

対象とするディスプレイは、FPD (LCD; PDP; FED; LED; EL) と CRT である。

ディスプレイは、マン・マシンのインターフェイスとして、急速に進展し新市場創造型の電子部品として、確固たる地位を確立した。21世紀は、デジタル化、ワイヤレス化、とネットワークに支えられた情報通信の広がり、我々の社会生活を大きくかえようとしている。IT (情報技術) 革命の一翼を間違いなくディスプレイが担うことになる。又この新しいコンセプトの製品群の進展は、驚異的なスピードで進んでいる。今や3年一昔である。

会場は、ロングビーチコンベンションセンターである。内容は、次の8項目である。

*Four-Hour Short Courses	4
Fundamentals of Projection Displays, Active-Matrix LCD, Emissive Displays, and Video	
*Display-Related Seminars	19
Diverse topics related to information display	
*Applications Seminars	6
Focus on the application and evaluation of information displays	
*Symposium Technical Sessions	53
The three-day Symposium features over 200 papers from around the world	
*Poster Sessions	90
*Evening Panels	2
*Exhibition (Tues: Wed: Thurs:)	260
*Display Technology Showcase	

規模が大きく全体の把握は、困難であるが内容の一部を紹介します。

ディスプレイ市場の要因となるキーワードは、次の五つである。

- ①マルチメディア
- ②インターネット
- ③デジタル化

④パーソナル化

⑤省エネルギー

液晶ディスプレイは、薄型・軽量、低消費電力、省スペースなどの特徴から、その市場を拡大しつつあるが、問題はCRTに比してのコストパフォーマンスである。従って液晶パネルの低コスト化が焦点となる。その一は、製造プロセスの簡素化(→4枚マスクプロセス)であり、その二は、基板の拡大(730×920 mm²)による多面取りである。性能では、視野角及び動画

対応技術(応答速度)の進展である。

その他として、

- *LTPS(低温ポリSi-TFTLCD)およびLCOS(Si基板液晶)技術の発表及び進展。
- *有機EL(小型製品)及び無機EL(17"型)技術の発表及び進展。
- *FEDで1年前の5.3"型から13.2"型と大型高精細化の展示発表。
- *水銀(Hg)レスバックライトの発表。実用化に前進。